

道徳の教科化ではなく、政治家倫理・道徳の確立を

嶺井正也（専修大学）

やっとな、という感は否めないが、第一次安倍晋三内閣の時と同じく、またもや閣僚の政治資金報告書の虚偽記載や公職選挙法違反が明らかになりつつある。そして国会の委員会や本会議では、聞くに堪えない野次が飛びかっている。

おりしも文部科学省の中央教育審議会は、第一次安倍内閣時の教育再生会議の時に提言したものの具体化できなかった道徳の教科化を図る答申を出そうとしている。

今の政治家に倫理や道徳が著しく欠けているから自らを律すべく道徳教育を充実させようとするのならともかく、これからの日本社会を担う子どもたちに道徳心や道徳的態度、さらには国を愛する態度を養うために道徳を教科にするということのようである。

日々の報道を通じて、公人の代表ともいふべき（本来なら）政治家の犯罪行為、不道徳的態度や行為を子どもたちはじっと見ている。

そろそろ道徳の教科化をも射程にいった学習指導要領の改訂が間近に迫っているが、現行の学習指導要領・道徳（小学校）には次のような内容が盛り込まれている。（国会内に掲示したらどうだろうか）

- ・うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。
- ・約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切に使う
- ・過ちは素直に改め、正直に明るく元気で生活する。
- ・自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。
- ・謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切に使う
- ・働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。
- ・時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する
- ・だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。

小学校の道徳の時間で学習している内容が実際には日々大人によって裏切られていることになる。建前と実際の乖離を子どもたちは日々学んでいるのだ。

自らの振る舞いを省みることなく、子どもたちに道徳を教えることを強化する政策をすすめるようとする愚行は恥すべきではないか。

ここでもう一つ、押さえておくべき点がある。それは時の権力者が道徳教育を持ちだす時には、ろくなことがない、ということである。代表的な例は、①教育勅語を礼賛し、「五つの大切、十の反省」を打ち出した田中角栄元首相はロッキード事件で逮捕・失脚、②「心の教育」を推進した高石邦男元文部事務次官はリクルート事件で逮捕された。

周知のように今年の6月に発足した「人格教養教育推進議員連盟」の副幹事長は中田宏議員で、事務局長は山田宏議員とのこと。議員連盟の人格教養や政治倫理や道徳が確立してからの発足ならまだしも・・・。

子どもたちは見ている！！